

・学校の概要（平成15年4月現在）

和歌山市立城北小学校（フロンティアスクール名）									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	2	1	3	10	16
児童数	29	39	34	37	47	34	6	226	

・実践研究の概要

1. 主題（テーマ）

「 確かな学力を身につけた子どもの育成 」
 - 少人数指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を図る -

2. 内容と方法

（1）実施学年・教科

1年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、系統性が強い教科であるため。さらにTTとして、当該教科に関する研究実績があるため）
 1年生国語（各教科の基本となる教科であることから、研究を進める必要があると考えて）
 2年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、系統性が強い教科であるため。さらにTTとして、当該教科に関する研究実績があるため）
 2年生国語（各教科の基本となる教科であることから、研究を進める必要があると考えて）
 3年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、系統性が強い教科であるため。さらにTTとして、当該教科に関する研究実績があるため）
 3年生国語（各教科の基本となる教科であることから、研究を進める必要があると考えて）
 4年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、系統性が強い教科であるため。さらにTTとして、当該教科に関する研究実績があるため）
 5年生国語（各教科の基本となる教科であることから、研究を進める必要があると考えて）
 5年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、系統性が強い教科であるため。さらにTTとして、当該教科に関する研究実績があるため）
 6年生国語（各教科の基本となる教科であることから、研究を進める必要があると考えて）
 6年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であり、系統性が強い教科であるため。さらにTTとして、当該教科に関する研究実績があるため）

（2）年次計画

平成 14	テーマ 自ら学ぶ子どもの育成 - 少人数指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を図る - 仮説 習熟度別少人数指導を取り入れることで、学習の基礎基本が子どもたちに身に付き、
----------	--

年
度

学習に対する意欲が向上し、積極的に学習に取り組む子どもになる。

研究内容・方法

算数の基本指導方針に基づき、内容・方法を実施、検証する。

算数の基本方針

全学年に習熟度別少人数指導を導入する。

教科書の内容を基本と考え、教科書をいかに教えるか教材研究をする。

100マス計算(+、-、×)3分以内、基本わり算50問3分以内を目指して全学年で取り組む。

授業の終了時には適用題を使い、その時間の評価をする。

ノートチェックは毎時間行い、定規等を使わせて分かりやすいノート指導に取り組む。

習熟度が高いと思われるグループでは単元の時間を2～3割を余らせ、その子に応じた指導を実践する。(難問を扱うことも可)

習熟度が低いと思われるグループについては単元の時間を全部使って教科書の内容をきちんと教える。

それぞれの単元で考えることを大切にした授業を入れる場面を検証する。

子どもが喜んで取り組む算数の学習を考える。

平成
15
年
度

テーマ

「確かな学力を身につけた子どもの育成」

- 少人数指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を図る -

仮説

少人数指導を国語と算数に取り入れることで、学習の基礎基本が子どもたちに身に付き、学習に対する意欲が向上し、積極的に学習に取り組む子どもになる。

研究内容・方法

平成14年度に実施した算数の研究に加え、国語の基本方針に基づいて、内容・方法を実施、検証する。

国語科基本方針

全学年に少人数指導を導入する。

「基本単元」を中心に研究を進める。

「基本単元」・・・A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと

読み、書き、読解の3本柱で研究する

・読み・・・音読、暗唱

覚えるまで読ませる。本読みを徹底する。

・書き・・・視写、作文、漢字

学年に応じたスピードで視写を行う。テーマを与えて作文させ、書いたものが保護者や他の子どもの目に触れるようにする。新出漢字の8割以上は書け、9割以上は読めるようにする。漢字練習帳1ページは宿題に出し、必ず点検する。

県教委推奨の「漢字検定」を活用する。

・読解・・・単元ごとのテスト

多かったが、2年生から6年生までは習熟度別少人数指導を取り入れて、個に応じた授業展開を試みた。

教科書をいかに教えるかを考え、教材研究をすることで、授業のスリム化と、算数的な活動・練り上げをどのように進めるかなどについて研究を進めている。

「単純計算は脳を活性化させる」(「本当の学力をつける本」陰山英男 小学館 p38)の考えのもと、毎時間全学年で100マス計算や基本わり算に取り組んでいる。たくさんの計算をこなしていくことで、子どもたちに数感覚をとらえさせていくことができると考えている。100マス計算では、たし算とかけ算をしているが、これは数の合成分解や補数の考え方につながっている。かけ算については、かけ算九九の習熟とわり算への応用、基本わり算では割る数と割られる数の倍数関係がつかみ取れると考えている。

「100マス計算」と「基本わり算50問」についてのタイムと正答率を1学期と2学期末を比較して掲載する。全学年での取り組みとなっているが、今回は高学年の記録を載せておく。ほとんどの子どもがタイムと正答率を上げているのがわかる。

年組	100マス	100マス	基本割	基本割
番号	4月14日	12月5日	9月8日	12月5日
1	3'02	2'10	47問	2'47
2	2'22	1'30	3'44	2'59
3	3'26	2'25	25問	37問
4	2'31	1'29	3'21	2'41
5	2'49	1'52	4'31	3'34
6	2'41	1'24	4'40	3'58
7	3'38	1'49	23問	3'24
8	46問	3'31	13問	26問
9	2'58	1'57	欠席	2'58
10	2'31	1'39	4'13	3'35
11	1'52	1'08	2'14	1'34
12	3'34	2'30	36問	41問
13	2'26	1'40	4'56	3'22
14	3'20	2'18	33問	40問
15	3'25	2'41	16問	31問
16	3'04	2'02	27問	31問
17	2'00	1'22	4'00	2'30
18	3'52	2'02	30問	42問
19	4'08	2'02	24問	34問
20	1'41	1'12	2'19	2'19
21	2'16	1'24	3'55	3'09
22	2'40	1'32	35問	42問
23	1'52	1'21	4'45	3'40
24	3'10	1'41	26問	4'00
25	3'08	1'43	27問	3'48
26	2'04	1'28	3'33	2'24
27	3'05	1'50	22問	43問
28	3'07	2'15	30問	47問
29	3'50	1'43	46問	4'00
30	2'12	1'25	5'00	2'25
31	4'57	2'35	26問	42問
32	2'54	1'51	4'19	3'00
33	1'15	0'53	1'28	1'02
34	4'01	2'05	32問	48問
35	99問	3'17	24問	36問
36	2'01	1'28	39問	3'46
37	3'03	2'12	24問	34問

年組	百マス	百マス	基本割	基本割
番号	4月14日	12月9日	4月17日	12月9日
1	1'29	1'10	2'41	1'59
2	1'42	1'17	1'41	1'17
3	1'50	1'34	2'18	1'57
4	2'10	1'34	37問	3'00
5	1'39	1'25	2'55	1'21
6	1'33	1'13	2'19	1'42
7	2'07	1'03	42問	1'31
8	1'44	1'41	2'50	1'42
9	1'09	1'03	1'22	1'16
10	1'45	1'34	38問	46問
11	1'17	1'05	2'00	1'32
12	1'29	1'11	1'21	1'06
13	68問	2'35	22問	31問
14	2'00	1'28	41問	2'45
15	64問	2'43	30問	29問
16	2'05	1'35	38問	2'25
17	1'32	1'21	3'01	1'56
18	1'52	1'36	2'50	2'01
19	1'08	1'02	1'00	0'49
20	1'49	1'31	33問	43問
21	1'57	1'40	48問	2'47
22	1'43	1'23	49問	2'13
23	1'18	1'04	1'35	1'10

年組	百マス	百マス	基本割	基本割
番号	4月14日	12月9日	4月25日	12月9日
1	1'35	1'14	2'36	2'30
2	1'25	1'09	1'34	0'55
3	1'28	1'23	1'59	1'50
4	1'09	1'02	1'14	1'03
5	2'11	1'42	2'47	2'31
6	1'03	1'01	1'28	1'07
7	2'29	1'40	42問	2'44
8	2'24	1'51	27問	38問
9	62問	1'12	47問	1'55
10	1'40	1'26	2'53	2'51
11	1'46	1'42	2'36	2'35
12	0'59	1'09	0'59	0'52
13	1'35	1'12	3'00	1'48
14	64問	2'34	8問	20問
15	2'29	1'37	30問	40問
16	1'59	1'27	36問	2'15
17	2'45	1'42	27問	2'42
18	1'16	1'07	2'35	1'21
19	1'30	1'16	1'55	1'45
20	1'30	1'20	2'02	1'26
21	1'49	1'43	3'00	2'35
22	1'32	1'26	3'00	2'13
23	1'41	1'07	41問	1'54
24	1'54	1'27	40問	2'18

年 組	百マス	百マス	基本割	基本割
番号	4月14日	1月23日	4月25日	1月16日
1	1'35	1'12	3'48	2'54
2	2'36	1'50	6'50	5'40
3	2'26	1'40	7'21	5'00
4	1'32	1'20	4'23	3'06
5	2'07	1'17	6'00	4'14
6	2'05	1'46	4'48	4'36
7	5'以上	2'29	3問	16問
8	4'21	2'54	13問	27問
9	1'11	1'07	1'38	1'21
10	2'38	1'59	8'39	5'11
11	2'15	1'48	5'40	4'25
12	1'39	1'16	6'00	3'36
13	2'05	1'31	7'41	5'36
14	3'24	2'11	9'20	6'49
15	1'23	1'15	2'28	1'57
16	2'05	1'46	5'40	4'10
17	2'26	1'57	30問	49問
18	2'24	1'44	10'以上	5'34
19	2'38	2'11	30問	4'59
20	2'17	1'46	48問	4'46
21	1'25	1'20	4'29	3'17
22	1'16	1'06	2'10	1'44
23	2'52	2'19	37問	7'11
24	1'44	1'26	4'49	3'35
25	欠席	1'17	5'55	3'53
26	2'45	1'57	8'15	8'15
27	1'56	1'29	5'30	3'41
28	4'12	3'59	9'14	7'25
29	1'27	1'17	3'51	3'11
30	2'17	2'08	6'00	4'30
31	1'59	1'44	6'52	5'51
32	1'38	1'46	6'32	3'30
33	2'22	1'41	10'以上	7'11
34	1'42	1'34	5'55	3'11
35	2'03	1'34	4'18	3'08

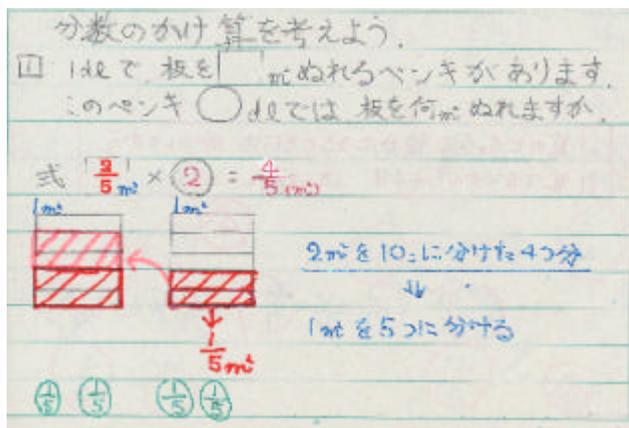
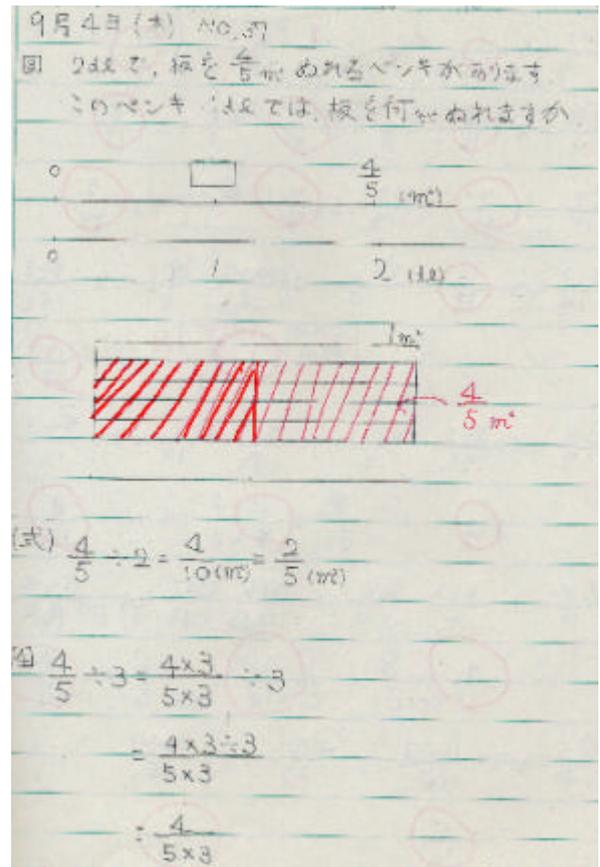
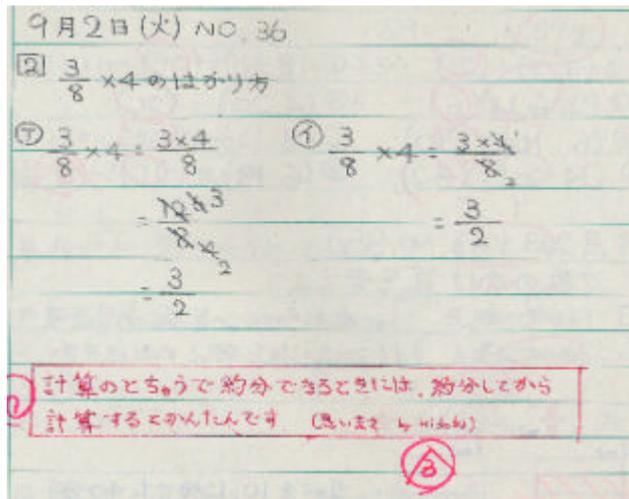
テストでは、75点以上を評価のBととらえ、全員にB評価ができるように指導方法を考える。さらに、1学期の通信簿でC評価をつけた子どもについては、夏休み中に3日間の補充授業を行った。

「授業の最後の適用題での達成度の点検」を必ず行う。

授業ごとに1時間の学習の段階をクリアしているかをチェックし、次の段階に進む体制を取るようになっている。教師の感覚に頼るのではなく、実際の子どもたちの姿でそれを判断している。また、単元テストの前には総復習の時間を設けている。さらに、テストの後にも時間を取り、できなかったところを復習している。

黒板に書かれていることは必ず写して、写すことも勉強であることを知らせる。定規等を使い、美しいノートを書かせる。

子どものノートの例



については、本年度の研究会で6年生で取り組んだ「比例」の単元の単元計画と評価規準を載せることにする。

指導計画（全9時間）

時	Aグループ	Bグループ
1	伴って変わる2量の関係を調べる。	伴って変わる2量の関係を調べる。
2		比例の意味を理解する。
3	比例の意味を理解する。	比例の性質を調べる。
4	比例の性質を調べる。	比例の関係に着目した問題をやってみよう。
5	比例の関係に着目した問題をやってみよう。	比例の関係のグラフをかいてみよう。
6	う。	
7	比例の関係のグラフをかいてみよう。	学習内容の習熟を図る。
8		発展的な問題をやってみよう。
9	学習内容の習熟を図る。	

時	Aグループ	評価規準	Bグループ	主な学習活動	時
1	伴って変わる2量がある現象を見て、何と何	教科書の絵を見て、一方の量が変わると、もう一方の量が変わるも	身の回りから、一方の量が変わると、もう一方の量が変わる	身の回りから伴って変わる2量の現象を見つ	1

2	が変わるのか、増えるのか減るのかを話し合う。	のがあることを知る。 身の回りから伴って変わる2量の関係を見つける。	ものを見つけることができる。	け、「増えれば増える」「増えれば減る」「それ以外」の関係を捉える。	
3	水槽に水を入れる場面を使い、伴って変わる2つの量の変化方を調べる。	伴って変わる2量の関係を調べるには、表を用いれば良いことが分かり、調べることができる。	変わり方の決まりを表から見つけ、一般的にとらえることができる。	伴って変わる2量の変わり方を表を使い調べる。	2
4	水の深さが水を入れる時間に比例する関係について、くわしく調べる。	比例する2量の関係について多様な見方で調べることができる。比例の性質を理解している。	比例する2量の関係について多様な見方で調べることができる。	1時間目に使った場面を表にして、比例の関係をくわしく調べる。	3
5	教科書p8の問題3を解決する。	比例の性質を利用して問題を解決することができる。	比例の性質の倍関係と商一定の両方を使って問題を解決できる。	教科書p8の問題3を解決する。	4
6	身の回りから比例すると思われる2量を探し、比例かどうか確かめる。	比例の関係を判定することができる。身の回りから比例の関係になっているものを見つけようとしている。	比例の関係を表からグラフに表し、考察することができる。比例のグラフは原点を通る直線になることを理解している。	比例の関係をグラフに表し、その特徴を調べる。	5
7	比例の関係をグラフに表し、その特徴を調べる。	比例の関係を表からグラフに表し、考察することができる。	いろいろな比例の関係をグラフで表そうとする。		6
8		比例のグラフは原点を通る直線になることを理解している。		教科書p12の練習をする。	7
9	教科書p12の練習をする。		図や表を使い比例の関係を判定したり、性質を用いることができる。	発展的な問題を使い、比例の関係を判定できるようにする。	8 9

国語科の基本方針にもとづいた成果

1. 言語事項について

漢字

漢字スキルを活用し、毎時間5～10分間、漢字の練習に取り組んできた。新出漢字を学習するときは、空書き・指書き・なぞり書き・写し書きをし、毎回教師がチェックしてきた。また、5問テストや10問テスト、50問テストを定期的に、時には繰り返し漢字テストを行い、定着するように心がけてきた。1年生については、平仮名についても、同様の取り組みをしてきた。

漢字テスト平均 (点)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1学期		81	84.5	90.5	89	76.6
2学期	92.8	89	89.2	85	94	79.2

点数には表れていないが、字を丁寧に書くことができる子が多くなってきている。

言葉の意味

3年生以上では国語辞典を活用し、自分で言葉の意味を調べられるようにと取り組んだ。各教室に国語辞典を置き、いつでも調べられるようにも配慮した。最初は、一つの言葉を調べるのにも何分もかかるような状態であったが、10秒～20秒足らずで調べることができるようになった子もいる。また、辞典でその言葉を見つけても、意味が複数載っていることもあるので、文脈に即して考えられるようにと、

【意味を予想する 辞典で調べる 意味が一番合うものを選ぶ もう一度文章と照らし合わせ 意味を考える】

という手順も、学年に合わせて採るように心がけた。そうすることにより、辞典だけに頼るのではなく、自分でも解決する力をつけられるようにと考えたからである。

2. 読むことについて

音読・朗読・暗唱

物語文・説明文・詩などの単元では、できるだけ毎時間音読を取り入れた。その単元の初めには、必ずCDやテープ、教師の範読を聞きくようにした。そして、一斉読みや教師の後に続いて読む追い読み、順番読み、役割読みなど、様々な形態の音読に取り組んだ。また、毎時間多くの子どもが何回も読めるようにするときは一文読みを、内容の把握を重視するときは、段落読みや場面読みなどをも取り入れた。

また、音読を録音し、互いの声の強さや大きさ、速さなど、表現の仕方を聞き合い感想を出し合ったり、良いところをまねし合ったりということにも取り組んだところもある。音読を意識させるために、本読み集会を企画し、全学年が教材を暗唱し、全校で聞き合うこともした。

そのような取り組みを続けているうちに、子どもたちは、音読を大事にするようになり、大きな声で強く読めるようになった子が増えてきた。

読解

今年度は、確かに読むための方法を身につけるということを目指し、物語文・説明文に焦点を絞って次のような方法で学習を進めた。

物語文

低学年では、登場人物やその言動に注目し、どのように場面が移り変わっていくかを大事に

し、中・高学年では、各場面に見出しを見つけ、その見出しに沿って大事な文や言葉を選んでいくなかで、中心人物の心の変容を捉えていくという方法で学習を進めた。

説明文

低学年では、何についてどのように書かれているかに注目し、中・高学年では、それがどのような構成によって成り立っているかに注目し、まとまり分けをし、各まとまりに見出しをつけ、その見出しに沿って大事な文や言葉を選んでいくなかで、筆者の主張するところを捉えていくという方法で学習を進めた。

上記のように、物語文でも説明文でも基本的に同じ学習方法で学習した。これは、学び方を学ぶということを重視し、一つの方法を繰り返し学習することで、その学習方法を身につけやすいであろうと考えたからである。

【読む】テスト平均

(点)

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1学期		91.4	92.0	94.8	82.1	96.0
2学期	92.7	97.6	92.0	94.3	80.1	97.5

3. 書くことについて

日記

できるだけ毎日あるいは隔日、日記を書くように指導した。これは、書くということに慣れるためである。書くことに慣れてくれば、自分の考えを自由に書けるようになるであろうという考えからである。また、課題に沿って書くことも取り入れた。

作文

文章構成に注目しながら書くことや、見直しをすることによって、より推敲する習慣をつけられるように取り組んだ。

2. 今後の課題

1時間1時間の評価規準を作り、その時間に達成できているかを子どものノートをチェックすることでとらえてきた。さらに、単元の後半では内容の復習をし、単元の重要な部分を指導した。しかし、たとえば、5年生の学習では4人の子どもについては、テストで75点以上をとらせることができなかった。その子どもたちにをどのようにすればB評価に到達させることができるかその指導方法の確立が課題である。

また、ノート指導についても、まだ十分な成果が現れていない子どもが何人いる。その子どもたちに対する手立てについての研究が課題といえる。

それとともに、習熟度別少人数指導を取り入れていることで、より子ども一人一人に合わせた指導が可能となっているが、習熟度の高いと思われるグループに対する指導の方法や教材の開発には取り組めていない。次年度にはそのことにも取り組み、伸ばしこぼしのないような学習について取り組むことが必要である。

このように、基礎基本について研究を進めてきたが、教師の子どもたちに対するよりいっそう細かな教材研究の必要性が明らかになったといえる。

・学力把握のための学校の取り組みについて

細かい評価規準の作成と達成の方法

1時間ごとの評価規準を作成し、授業の終わりにそれに基づいた適用題を解決できたかどうかで達成を判断した。達成できなかった子どもについては、その日のうちに補習をし「できた」という実感を持たせて帰宅させた。

単元ごとのテストを大切にす。

「できた」「できない」を判断する時に、子どもの実際の表現したものを使う。本校では市販のテストを使用しているが、そのテストの内容は教科書の内容と合致していると考え、そこできちんと点数がとれることも大切なことととらえている。

通信簿の改訂と学力についての保護者への説明

保護者の子どもの力がよく分かるように、通信簿を単元ごとの評価に変えた（今年度は、算数・理科・社会・図工）。これにより、教師自身にも、どの部分の内容が子どもたちに理解させていないかわかり、次の指導の手がかりになった。さらに、通信簿の改訂に伴い、学力について保護者に説明し、学校の責任についても話をした。

・フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・研究会 平成15年10月30日（金）13：00～16：00 城北小学校
テーマ 「 確かな学力を身につけた子どもの育成 」
- 少人数指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着を図る -
対象 教職員・一般
- ・研究会 平成16年10月中旬 城北小学校
テーマ 「 確かな学力を身につけた子どもの育成 」
- 少人数指導の実践を通して、基礎・基本の確実な定着（国語科・算数科）と、
伸ばしこぼしや落ちこぼしに対応した指導 -
対象 教職員・一般
詳細については、4月中に決定
- ・HP作成については、本校HP（<http://www.wakayama-wky.ed.jp/johoku/>）の中に「少人数指導」「研究会のおしらせ」で内容の一部を掲載している。
- ・研究主任が平成15年8月19日に和歌山市算数教育研究会で研究内容を発表。
- ・研究主任が平成15年8月26日に海南市算数教育研究会で少人数指導についての講演をする

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（復習チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	